

内 容	第3回新しい文化芸術施設整備に係る候補地検討会
日 時	平成27年7月7日（火） 15:30～17:00
出席者	検討会委員：青山 一麿、阿部 宏史、石橋 一典、坂手 洋二、 佐々木 英代、徳田 恭子
発 言 要 旨	
<p>事務局： それでは、定刻がまいりましたので「第3回新しい文化芸術施設整備に係る候補地検討会」を開催します。阿部座長よろしく願いいたします。</p> <p>阿部座長： 座長を仰せつかっております阿部です。本日は大変お忙しい中、委員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。この検討会も第3回ということで、本日で最終を予定しています。これまで、それぞれのご専門の立場からご意見をいただきありがとうございました。市の方で、候補地の考え方について、案という形でたたき台を用意していただいております。これに加えて、さらに、ご専門の立場からご意見を伺いまして、検討会としての最終のまとめにたどり着ければ、と考えております。どうぞよろしく願いいたします。 それでは、前回までに委員の皆様方からいただいたご意見について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>事務局： 前回までに委員の皆様からいただいたご意見を、4つの視点ごとに考え方として整理したものの「資料1」と、第2回検討会の発言要旨「資料2」を、お手元にお配りしております。なお「資料2」については、ホームページでも公開しているものです。それでは「資料1」を読み上げますので、内容のご確認をお願いします。</p> <p>【「資料1」読み上げ】</p> <p>阿部座長： はい。簡潔にまとめていただいております。この内容をベースにして、さらに、それぞれの立場からご意見を伺えれば、と思います。ひとつお順番にご意見を伺っていくということで、まず青山さんから。</p> <p>青山委員： 青山です。よろしく願いいたします。気になるところは、やはり、立地的には今の説明がありましたように、文化芸術エリアにある天神町の方が一步抜けているのは承知の上ですが、いかんせん敷地が狭いということで、建築的に敷地の狭さが致命的ではないかというところ。舞台搬入用のエレベーターを使用せずに利用できるというところ、利便性、コスト面からも直接搬入できたほうがよいという意味で、今一度確認をしておく必要があるのではと思います。</p> <p>また、先ほどの「資料1」裏面にありましたが、再開発地区の事業実現性について、</p>	

特に合意形成のリスクについては必要以上に過敏になる必要はないと思っています。前回も申し上げたが、再開発地区を選ぶことになれば、市はリスクをとる形になるので、そこできちんと管理が出来るだろうと。市は期限を設けて進捗を管理すれば、合併推進債活用期限までに工事完了は十分可能とっております。一年やってみて都市計画決定に進まなかったら、その時はあきらめるといった判断をすることも必要とっているもので、そういったやり方もあるという事を意見としたいと思います。

石橋委員：

石橋です。よろしくお願ひします。第2回が終わってから、調べたりした中でいくつか気になることがありましたので、事前に市の方へ質問をさせていただいていますが、本日はプリントでの提示はないということで、この時間で紹介させていただき、それを踏まえての私なりの意見を述べたいと思います。

気になったのは、再開発事業での実現性です。改めて、千日前の再開発では平成28年度中に都市計画決定の目途が立つかと言う質問を出させていただきました。市からは第2回までの会合の中で、組合なりの目算があるという前提でのやりとりであったという認識であると回答いただいています。

一番気になったのは天神町の敷地の狭さです。それについていくつか質問をさせていただきました。ボリューム感をつかむことの一つの例示にすぎないということでした。具体的な回答はいただけませんでした。文化振興課の方でも片手間ではないと思われまので、相当考えた上での案だと思いますので、全てこの時間で申し上げることができませんが、いまだ疑問に思っていることを3点述べさせていただきます。

3階のホワイエを広くできないために、ギャラリーが開演前の待合スペースになってしまう。すなわち、ギャラリーを使用しているときには、待合スペースがなくなってしまう。特に雨の日などは非常に市民会館も、市民文化ホールも混雑をしますが、それが根本的に解消できない。

また、客席について非常に疑問に思っています。客席についても舞台のように現行の広さを赤い線で示してほしかったのですが、これは提案の客席が一見して狭いからです。市民会館、市民文化ホールの客席の大きさは取れていないと思います。特に中ホールの裏にすぐ大ホールの客席があり、どちらも広げることが難しい。

観客の動線が非常に疑問です。1階の入口は、どちらも上手か下手の一方向しか出入口がありません。通常の入退場にも非常に混雑します。特に非常時の安全な避難も疑問として沸いてきたということでもあります。以上3点ですが、疑問を述べさせていただきました。そういったことも前提に、意見を述べさせていただきます。

3カ所の候補地のうち、絶対的に最適な候補地はなく、それぞれにプラス面、マイナス面があることが分かってきました。

千日前と表町三丁目は、中心部から若干遠く、再開発事業のため実現可能性は現時点で100%確かとは言えませんが、敷地が広く理想の劇場は可能です。なお、2つの候補地には、準備期間、地権者の同意の可能性および文化芸術施設の具体的内容に大きな差があり、千日前の方が、実現可能性が高く、理想の文化芸術施設に近いイメージが提案されています。

天神町は、立地がよく実現は確実ですが、敷地の狭さは決定的にマイナスで、理想の文化芸術施設にはほど遠いものになってしまうと思います。

再開発事業が平成28年度までに目途が立たなかった場合に、天神町に変更することは可能です。

以上を整理すると、千日前を候補地にすることが賢明ではないでしょうか。そして、もし目途が立たなかった場合に、平成28年度を期限に天神町に変更してはどうでしょう

か。

なお、天神町になった場合、周辺の土地の購入を進めて決定的な敷地の狭さを少しでも解消するとともに、市民会館と市民文化ホールの現状変更を優先させるため、大ホールと中ホールのみを建設し、スタジオタイプの小劇場は当面、近隣の既存施設と連携を図りながら、引き続き近隣で建設できる場所を検討していったらどうでしょうか。

若干、補足をさせていただきたいと思います。振り返ってみると、まず平成25年度に「あり方検討会」が開かれました。そのとき、市長が強調されたのは、「70万市民の政令指定都市にふさわしい、理想の文化芸術施設にするためには、まずはコンセプトの確立、その上で候補地の検討、と議論を積み重ねていくことが大事。今は、候補地はさておき、どんなあり方が良いのかを検討してほしい」という趣旨ではなかったでしょうか。候補地ありきで論議をすると、コンセプトが揺らぎ、結果、無用の長物を造ることになってしまいかねないからだったと思います。

そして、あり方検討会の結果を受けて昨年、文化振興課が「新しい文化芸術施設の整備に向けてのコンセプトと施設のイメージ」としてまとめられました。

これらの今まで積み重ねてきたことから、まずは理想の文化芸術施設を建てられる候補地を追求するのが、自然な流れです。

しかし、再開発の場合、平成33年までに完成できなかったとき、合併推進債が使えなくなるのが問題になっています。

このことについては、青山委員が提案されているとおり、平成28年度までに都市計画決定の目途が立たなかった場合には、天神町に変更することで解決できます。天神町の候補地は市有地であり、1年遅れても建設できる候補地だからです。

なお、2つの候補地には、準備期間等の関係から、千日前の方が、実現可能性が高く、施設のイメージが理想の文化芸術施設に近いものが提案されています。

以上から、千日前を候補地にし、もし目途が立たなかった場合は、平成28年度を期限に天神町に変更する、これが賢明な判断という訳です。

理想の文化芸術施設を追求することが可能なのに、その努力を怠るとすれば、岡山市が批判を受けかねません。また、地権者の同意が必要な再開発組合に提案を要請した岡山市の責任もあると思います。

万一、天神町に建てることになった場合も考えておく必要があると思います。その時、「コンセプトと施設のイメージ」をすべて盛り込むことは止めた方がいいと思います。敷地が狭い故に、すべてを盛り込むと、すべて中途半端なものができてしまうと思われれます。

まったく新しく施設をつくるのであれば、人が集うオープンスペースであるとか、既存の施設にないスタジオタイプの小劇場をまず考えることも大切ですが、この度は、「コンセプトと施設のイメージ」の出発点のとおり、岡山市市民会館と岡山市市民文化ホールの建て替えである点を優先し、まずこの2施設の充実を図るべきと考えます。小劇場は当面、近隣の300席規模のいくつかのホールの活用を考えてはどうでしょうか。

そして、搬入出のしやすさ、バックヤードの広さ、楽屋の位置など再検討の必要があります。特に、座席数については、現在の市民会館1718席は数年に1度、満席になる程度のため、1600席程度にしてもよいと思われれます。一方、文化ホールの802席は、現在1年に30日は市民劇場の例会で満席になっており、今後の一般公演の誘致も考えると、900席規模が必要だと思われれます。

これから50年60年私たち市民が活用できるものであると同時に、岡山の文化芸術の顔として全国に誇れるものをつくりたいと思います。そのために、まず、理想の文化芸術施設にするために、「コンセプトと施設のイメージ」の考え方が実現できる場所を候補地

にするということが大切であるとする次第です。

阿部座長：

かなり踏み込んだ形でご意見をいただきましたけれども、この検討会の目的は候補地についての長所、短所といった点を明確にするということで、あくまでも最終的な候補地の選定は市に委ねるという事をご理解いただきたい。ただし、かなり明確な意見をいただいたことには敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

坂手委員：

坂手です。わたしたちが選ぶ立場ではないことは了解をしています。候補地を検討するという事は、まちの中でどの場所にあればいいかというイメージの問題だと思っていたのですが、結局、案が出てきて、予算や内側の設計だの三者の人格を持った人たちが、案を出して、それを比べるというものになりました。これだと候補地の検討じゃないですね。

候補地としてどこが良いかというと、岡山市のまちづくりの方針があって、それに対して、わたしたちが「それと噛み合うのはここですね」とか「こうした方が良いですね」という話しになっていくものと思いますが、市の方針が、あり方検討会から出たものがあるとしても、明確に市の判断がある訳でなく、むしろ天神町を提案されている中で、私たちが発言をするのが難しいというのが正直なところです。

今言えることとして、私たちは今現在を生活しているが、100年以上前から江戸時代から明治になって、岡山という県が生まれて、市が生まれてきた中で、ひとつのシンボルであり、実用的な機能も果たしてきた文化や教育の拠点である市民会館のあり方という事を考えると、100年後の人が今の状況を見てどう思うかということが大切だと思います。

市民会館と市民文化ホールを建て直すということの特有の条件、今の財政的なことでの期限がある中で立て直す条件などありますが、そういう条件というものはどうやってもある訳なので、100年後、200年後を見たときにベストは何かといった視点が大切だと思っています。

そういう意味では、現状を維持するという考え方ではなく、現状市民会館があり、市民文化ホールがあり、いろんなやり方を今まで維持してきた訳ですが、それを見直すことができるチャンスな訳です。文化芸術振興基本法ができ、劇場法もでき、この20年くらいで日本全国で出来ている新しい公共ホールは、明らかにそれ以前とは違う考え方でつくられています。

それを、私がわかりやすく「創造型のホール」と言っているのは、私が創り手だから「創造型のホールを大事にしてくれ」と言っているように思われるかもしれませんが、創造型という言葉には色々な意味があります。創り手というのは、一般市民とは別にいる人間ではなくて、一般市民も創ることができます。音楽、表現に関しては、日本には「お稽古事の文化」があり、習っていく、教育といった面もあり、ある意味でそういう垣根は何十年も変わりません。戦後何十年ずっと固まってきていて、音楽と美術は習うけど、演劇は習わない、そういう考え方はおかしいんじゃないかと思っているのですが、この数年間は、ワークショップやコミュニケーション的なこととして演劇も活用されてきており、教育方針の中でも演劇が認められつつあります。新しい市民会館のあり方は、教育など市の方針全部につながってくると思います。

私がずっと言っているのは、岡山市の「どんなまちづくりをしたいか」という中で、それに見合う劇場であるというのが大事ということ。全国の展開の中で、そのことと噛

み合って、元々岡山の持っている考えが、何倍も自治体としてはうまく機能するように、そういうノウハウを私も提供できると思っているんですが、そういう意味で、旧態依然としたホールのあり方をなぞる形ではなく、刷新するというのが大事ではないかと思えます。

経済的な問題でもあるので、期限の中で考えるというのは無理もないと思うのですが、この案がだめだったら、こっちの案という時間も無いと思います。

限られた中で、これから設計図をいろんな方が出して、コンペもするのでしょうか、どこの観点でみていくのか、どこの要望で設計してもらうのか、その中でデザイン自体の問題、機能の問題は、かなり手を掛けないともったいないです。

私も新しく公共ホールをつくる時に、いくつかかかわっていますが、勘違いしたものがコンペを通っちゃう（ことがある）。東京の国立競技場も全くそうですけれども、外側の形だけにとらわれて、通っちゃったものを、内側を本当に専門家の目で直すとなると、角度を90度変えとか、いろんな配置を全部変えないといけなとか、一見全く変わっていないように見えるんですけど、専門家がやっても無理なんですね。機能を引き出すということは大切なんだけど時間は必要ですから、あまり時間はないと思った方が良いでしょう、だめだったら、こっちという話ではない気がします。

集合ビルの中にある劇場というものについてのイメージはどう思われるのでしょうか。「大きな集合ビル、商業施設の中で、一部に市民会館があるらしいよ」ということで良いのでしょうか。私は、まささらな土地を丸ごと劇場、市民会館にできるということは、ものすごくメリットだと思っています。そのデザインは大変凝るべきです。岡山市といえばあのデザインの劇場があるね、という風に、全世界どこに行っても、そのまちな人たちが自分たちのものだと誇りに思っている劇場というものがあって、その外観からして美しく、みんながそのことを「ああ、あそこですよ」と言えるようなものが実に多いです。ヨーロッパに行っても、アジアに行っても割と多いです。そういうことを考えるのがむしろ普通のことなんです。「集合ビルの中に、そういえば市民会館もありますよ」という事で本当に良いのでしょうか。テナントが総崩れになって、あるいはマンションに人が入らなくなって、その時に劇場はどうするのか？ということなんです。

岡山は今人口も増えているし、いい状態にあるのは間違いないが、前向き前向きで考えていくべきかもしれませんが、商業的な機能をプラスアルファすると、本来独立した劇場の持っているシンボリックな良さとか、機能的に持っていける何か失われることがあるということ間違いないと思います。

閑古鳥の鳴いているテナント、空っぽのフロアを通して最上階の劇場に行くという施設も全国に実際にあります。岡山の場合はそういうことはないと思いますが、それが一つの象徴です。そういった内側が空洞化したものになってしまう可能性があるということは間違いないと思います。

いちからやることの良さは間違いなくあると思います。舞台機構はプロの目も入るべきだし、創造型という言葉で誤解されたくないですが、私たち今の演劇人、舞台芸術の人間は、ただ自分たちのメリットとか表現のことだけ考えているのではないです。必ず、それぞれのまちとか国とかの単位でものを考える習慣はかなり出来ています。その中で考えると、いろんなアプローチが考えられるということです。その中で、与えられた条件の中で、一番良い機能を引き出すためには時間がないというのが、私の直感的なところなんです。それが後々、「なんであの時あんな旧態依然としたものしか作らなかったのか」と後々の世代に言われなために私たちの果たすべき責任ですし、創造型というのはアーティスト中心という意味ではないです。いろいろな意味で、劇場は日本ではただの貸館となっていますが、全世界に行くといろいろな劇場・音楽堂があります。そこには楽団がある劇場があり、

劇団がある劇場があり、劇場の人という劇場の中でアーティストもいれば、劇場のスタッフもいれば、プロデュースをする人もいれば、アウトリーチなど教育のことをする人もいれば、インフラを考える人もいて、商業的に成功することを考える人もいて、一つの目的に向かってるのが一番正しいパブリックの劇場のあり方です。そういうものが世界にはあるんです。日本だと目の前のことばかり考えています。新国立劇場でさえ、スタッフ部門は別会社が入っています。そのような会社の中で自分の会社の利益を優先している人たちが劇場の人と言えるのか。そういう意味では岡山の街にはいろんなポテンシャルがあるし、柔軟さがあるし、大らかに物事を見る力があります。全国の人がすごい劇場でしたねと言わせるためのいろいろなことができる、そういうチャンスだと思っています。スタジオの話もあったが、そのスタジオの機能がどうこうということではなくて、劇場全体をどう活かしていくか、そういうことが大事だと思います。

今出ている案というのは、あくまで案であって最低限の「こんなことができる」という案が出ていると思います。考え方とか取り組むときの柔軟性も含めた指針をみなさんが提出していると思いますし、私たちはそのことを評価して考えるしかないと思います。ですからプラスアルファのこと、街が豊かになる、商業的に賑やかになることはあまりプラスアルファだと思わずに良い方が良いでしょう。

文化が素晴らしければ、街がついてくると思うくらいのところがまだあった上で、きちんと文化の側は考えますので。今の3案の中でどれが良いということではないですが、どう考えても実現するときには何が大切かということと言うと、商業施設と合体することのメリットはどこまであるのかということ、それは今から15年くらいのことしか見ていないであろうことは間違いないという気が私はしております。

あんまり長くなるといけないのですが、創造型という言葉に誤解のないように。創造することは、街自体を創造する、人が住んでいる世界そのものを創造する、それが創造型劇場の考え方です。

ホールというものと、アートというものがぶつかることが多いんですね。市民会館自体は、公民館の機能も持っていますから。その中で文化をちゃんと提供する事の準備は万全であるに越したことは無いというのが私の考えです。そういう中で、色々な機能性があってほしい時のやり方は、沢山申し上げたいが、少なくとも大きな劇場が二個あるという事だけではだめだと思います。そのためのノウハウが色々あるのですが、スタジオや練習場みたいな機能が、なにも建物の中にあれば良いという事ではないんですね。市として取り組むときに、他の場所に稽古場があっても良いです。機能としてつくっていくのが人間の配置ですね。そういうものが本当に、今日の前の人材効率ではない形でどう含めるか。そのポテンシャルについての考え方で見ると、ある程度いろんなことが見えてくるのでは、と思います。

佐々木委員：

今現在、市民会館、市民文化ホールがあります。プロの演奏家や演劇関係者を迎えて、いわゆる収入を得るための行事もあります。でも本当は市民が主制作をして使っていることの方が多いのではないかと考えています。現在使っていて、皆、今ある物の中で工夫している。どうしてもないから困るという事もいっぱいある。それから安全の問題もある。一番気になっていたのは、ホールとしての機能をぜひこれだけは考えてほしいという項目を（今までに）述べさせていただいております。その中身が決まったら、外身が決まっていく。外だけ決まって中をとということだと二の舞を踏むような気がして仕方がない。せっかくのチャンス。最低限、市民が考えて育てていくために必要なものを考えれば、おのずとそこの広さや機能は決まってくると思います。それを一番に考えて、それに見合った場所は、そこから生まれてくるのではと思います。単純な広さだけではありません。今まで

に細かいことは沢山申し上げましたが、その中でも気になっていることは、上（の階）にステージがあると困るというのは、上演時にエレベーターを使って道具を上げ下げ出来ないという現実です。市民文化ホールでもシンフォニーホールでもそう。そういうのは支障をきたします。そういうことのないように、ステージの傍に道具があり、出し入れが出来ることを機能としてぜひ考えてほしい。そうすると必要な広さはおのずと出てくると思います。

安全面では、岡山市の小学校は4つに分けられて4年に1回市民会館で発表会を持つようになっていきます。子どもたちは一生懸命それに向けて練習をする訳です。一度、シンフォニーホールに会場を変えたが、何年かしたら、また市民会館に変わりました。現場の先生に、理由を伺ったところ、子どもたちが鑑賞するには、シンフォニーホールでは制約が多すぎるので、市民会館に変えたとおっしゃった。これは大きな問題を含んでいると思います。子どもが安全に使えるということが、どの年齢の人でも安全に使えるということなので、その辺の視点を入れてほしいと思います。

プロはどういう悪条件でも、今までの何十年の経験から使いこなしていけます。市民はプロは少ないです。でも実際に文化を育てていけるのは、ジャンルはどうであれ一般市民です。私たち一般市民が本当に使い切ることができるホールが出来る。そしてその条件を満たす場所をそこから引き出していきたいというのが、私の最終的な考え方です。よろしく願いいたします。

徳田委員：

候補地の考え方について。施設の機能の視点は、使う側と見る側の両方の視点で施設をつくるべきと私は思っています。使う側ばかりのことを考えると、客席が狭くなったり、観る側に我慢してもらおう結果となる。両者が心地よい空間となるようにしていただきたいと思えます。

私は、まちづくりの視点が一番大事だと思います。今生きている私たちは、あそこがいい、ここがいいと、言うことが出来る。岡山市を100年後どう持っていくかということ、坂手委員もおっしゃられた。まさに場所の決定なんかは、岡山市に決定したものはあるのでは？というくらいのこと。岡山市がこういうふうに持っていきたいと、市の20年～50年後を描いていけば、すぐに決定するのではないのでしょうか。駅前賑わいと表町の古さと城下町と。もう一つカルチャーゾーンをもっと市の魅力ある土地として持ち上げるなら天神町になるでしょうし、表町を活性化してまちの集積を広げていくということなら千日前、表町になると思えます。

「市長が変わるたびに変わる市政はもうやめましょうよ」と言いたいですね。水と緑というテーマは残っていますが、市民ももう少し勉強して、街をこうしたいという声をあげる必要があると思えます。協働という言葉が進んでいて、岡山市も市民が行政の言うことを聞くだけでなく意見を言う場所をつくり始めています。そういった点で、私たちの子ども、孫がどういった評価をする街とするか、先人のやったことを褒めてもらえるような岡山市にするために、この市民会館は、今世紀では大きな視点だと思います。

シンフォニーホールが出来た時も、皆さんが期待をしました。しかし、全く今は使えません。ほんの30年前に出来たホールが、エレベーターが使えません。エスカレーターも演奏中は止めなくてははいけません。3階席に座っている人が落ちそうで、怪我人は未だ出ていませんが、「あそこの3階席は絶対に座りたくない。」「シンフォニーホールに行くのはいやだ。」と言われます。これは、市民のアイデアが全く入らず、専門家だけで考えたホールだからそうなったのではないかと思います。

岡山市がどういうまちにして、カルチャーゾーンをどのように盛りあげていくのか。そ

れとも表町の活性化をするのか。表町に（新しい文化芸術施設が）出来た場合、本当に面のように回遊性を持たせるように市は予算をつけることが出来るのか。ホール予算を付けても、商店街のアーケードをやり直さなければ、歩いて楽しい商店街になるとは思わないので、そこにも予算を計上して、シンフォニーと表町を一体化して歩かせる工夫を考えることが必要だと常に思っています。

財政的なコストの視点においては、バブルの時のように財政が豊富な時代ではないので、少しでも儉約をして、出来る限り良い、可能な知恵とアイデアを出し、リスクのない財政計画を立ててほしいです。そういう視点から考えると場所も決定すると思います。

私が色々な人が集まる場に出席したときに、「今の市民会館の跡にどうして建てないのか」という意見も出ていたことを申し上げておきたい。私たちも、「なんとなく城跡だから、発掘作業も始まるんじゃないの」というくらいの感覚でしたが、なぜ今の市民会館の場所に建てられないかを市民に明確に示す必要があると思います。建てられないならば、今後あの土地をどうするかという将来像が見えてこない。「これは100年続ける」ということを明確に市民に示してほしいです。その場では「今の市民会館をリノベーション出来ないのか」という意外と簡単な意見が出てきてしまっていました。

決定権は市にあるので、100年後どういう街にするのかということを示したうえでの敷地の決定時の説明をしてほしいというのが意見です。

阿部座長：

ありがとうございました。たくさんご意見いただきました。私の方から一点確認です。

青山委員にお願いしたい。再開発の考え方についてです。財政負担、コスト、事業の実現性について、ご専門の立場からご意見いただきましたが、このところは少しリスクの部分で強調されているところもあるのですが、ご専門の立場からみて、3番4番の書き方についてご意見をお願いしたい。

青山委員：

3番のコストの面から説明をさせていただきたい。一見すると、再開発の方にコストがかかるように見えますが、例えば土地代や駐車場の有無、整備グレードなど細かい条件を提案に盛り込んでいた訳ではありません。整備グレードなどを同条件で比べてみると、再開発は国の補助金も入ってきます。その分、市も補助金で支えないといけないというところもありますが、コストの差は無いに等しいのかなと思っています。というのは、設計が進んでいないので、決定的なコスト比較がまだできる段階にない、コストの比較は参考という意味を持たないという意見を付け加えさせていただきたい。

事業の実現性については、坂手委員がおっしゃったのもすごくわかりまして。時間が無いというのは、理想の設計に近づいていないことはおっしゃるとおりだと思う。仮に天神町でやるにしても、相当今から設計を詰めていく必要があると思っています。それは、多分あと残された時間をどう使うかということだと。「1年やってみて」と申し上げましたが、まずはリスクを先読みしなくてはならない。今、市がどう判断することが重要なのかなど。最悪、1年たってもダメだったということもあるかもしれないですが、その可能性を極力下げなくてはいけない。市が再開発側を選択するという事は、今どう判断するかにつきます。この検討会では、その部分は市の判断に委ねるべきだと思います。

先ほど坂手委員から「複合ビルにホールを入れて良いのか」という意見がありました。千日前にしても表町にしても、ホールが単独棟に近い提案をされています。いわゆる再開発ビルに入っている事例、いわゆる下に商業施設、上にホールという事例もありますが、この2地区については単独棟に近い提案なので、それは若干違うのではと思っています。

再開発というのはあくまでも事業手法で、このエリアの開発に対して一番使い勝手が良かったのが、たまたま再開発だったということだけなんです。更地の少ない中心市街地でうまく土地をまとめて、補助金を入れて、効率的に開発しようというのが再開発なんです。事業を進めるには多少リスクも負いますが、そのリスクを克服するために、どれぐらいリスクがあるかをきちんと市が判断して、結論を出すのだろうなと思っています。事業の実現性という意味では、その市の判断が最大のポイントなのかなと思っています。

阿部座長：

今話をさせていただいたように、3番と4番については、それほど重きをおいて考える必要がないのではないかとということですね。例えば、複数の委員から意見が出ましたが、1年位期間をおいてという考え方もあるのではないかと。

この検討会の意見としては、施設の機能とまちづくりの視点から、十分にこれまでの議論をまとめるということが重要なのかなと思います。

施設の機能面で気になったのは、この検討会に先行する「新しい文化芸術施設のあり方検討会」で、施設の機能について議論されているということですが、それがこの資料の中にあまり盛り込まれていないのではないかと。そこで十分検討された内容を踏まえたうえで、候補地の選定を考えることが必要なのではないかと思います。

あと、この1(1)に書かれている敷地の問題は大きなポイントになるのかなと。天神町の場合、現在の提案では敷地面積が限られていて、先ほどの検討会の提言を十分に反映された施設が可能なのかという懸念が残る。千日前、表町ではそういった問題は小さいだろうということ。

1の施設の機能の視点、表町三丁目について「専門的な視点が反映された計画になっていない」ということから、「計画変更が多数発生することが懸念されるだろう」ということで、かなり厳しい意見が出ていますが、これについてご意見ありますか。ないのであれば、このままこの記述でいかせてもらいたいと思います。

それから施設の機能の面から言うと、市民が利用するというを十分に心がけていただくということ。プロの催物もあるとは思いますが、そのことについても十分に考慮する必要があるだろうということ。

まちづくりの視点では、1点目としては、ここに十分に書かれていないこととして、例えば100年を見据えたかたちでの岡山のまちづくり、その中でこの施設の位置づけを考えた決定が必要ではないかということでもあります。

あと、これは考え方によると思うのですが、ひとつは文化ゾーンの機能強化という考え方、もうひとつは1kmスクエア内の都市の中でのまちづくりの考え方、これは考え方がぜんぜん異なると思いますので、市の方でまちづくりとしてどのように考えるのか、ということで、どちらを優先するのかは決まってくると思います。この検討会としてはそういった2つの大きな視点があるというところで留めておきたいと思います。

私から、各委員の意見を伺ったうえで、候補地の考え方についてという資料の中で抜け落ちているところを補足させていただきました。他の委員の意見を聞いて、さらに発言をしたいことがありましたらお願いします。

坂手委員：

私たちが質問した形で、市からお答えいただきたいことがあります。一つは今の市民会館の跡地がどうなるのか。フォーマルに市の考えを記録に残していく必要もあるでしょう。また、市のまちづくりの方針をある程度分かっていることをこの場で発言し、同じく記録に残していく必要があると思うのですが。

阿部座長：

市からお答えをいただけますでしょうか。

事務局：

市民会館の現地の建て替えですが、今の市民会館が建っている土地は、岡山城の中核部分で、地中に遺構が残っている可能性が非常に高い場所であり、文化財保護の観点から建て替えが困難ということで、今までも説明をしてきているところです。まちづくりの方ですが、歴史・文化ゾーンへの文化施設の集積という面での発展と、中心市街地の活性化という面でのまちづくりで表町の活性化、回遊性を高めるということは、両面とも市のまちづくりでは重要なポイントとして考えています。

阿部座長：

それについてどちらが大事かと言っても、そういうものではないということですね。

事務局：

どちらも大事です。

青山委員：

2番の(1)で「新たなにぎわいの創出に繋がり、周辺地域の活性化やまちなか回遊性の向上が期待できる」というふうに意見を絞めているが、それだけではだめで、徳田委員が前回おっしゃったように、「ホールに頼りすぎずに地元も自ら真剣にまちおこしに取り組んでいただきたい」という意見は残していただきたいと思います。

阿部座長：

地域の人がまちづくりにどう取り組むかということもあるし、もし、この場所にということであれば、それを核に、市のまちづくり1kmスクエアをどうするかという構想がないと、市民全体としては納得できないでしょうから、それは考えていただく必要があるのかなと思います。今はどちらかというところ再開発が中心となっていますから。

現在の市民会館については、今回の候補地が最終的に選定されたうえで、どういった用途を考えることになるのか。何かすでに考えがあるのでしょいか。

事務局：

今の段階でどうするかというのは、まだありません。

岡山市政策企画課：

政策企画課です。岡山城、旧内山下小学校のあたり、城郭やその周辺の天神や内山下を含め、都心創生まちづくり構想ということで平成26年3月に策定しております。特に市民会館跡地は主要城郭の一部にあたりますので、お城を活かしたまちづくりということで、基本構想の中では歴史公園の整備という方向性を出させていただいております。ただ具体的にそこをどのようにするかについては、まだありませんけれども、方向性についてはそのように出させていただいております。

石橋委員：

坂手委員から私の名前が出て、言われたことについて意見を述べたいと思います。

維持してきたことを見直すチャンスというご提案ですが、これは見直すチャンスという事については全く反対しておらず、新たな視点で構築することは大事だと考えています。ただ、制約が出たときに優先順位をつけるということをお述べさせていただきました。維持

してきたことという言葉自体が気に入らないところではありますが、現在の市民会館も9割、市民文化ホールも7割の利用率を考えると、年間20～30万人が劇場に足を運び、舞台芸術を楽しんでいるのです。維持というひとことでは片づけられない市民の営みだと思えます。一人ひとりが生活に根ざして、舞台を見て、心の営みを繰り広げている、そういった人々が何十万人もいるのです。それは本当に素晴らしいことと思えます。また、佐々木委員が言われたように、演奏家をはじめ市民のつくり手が色々なことをしていることも、素晴らしいことと思えます。建て替えるホールによっては、それが出来なくなりかねないということです。その営みを発展されるために、今あるホール以上のものをつくる必要があるということ。それが広い場所であれば、坂手委員のいう新しい視点も盛り込んでいける可能性があるのではと思っています。

坂手委員：

今の状況が良くないということを言っている訳ではありません。あくまでも候補地を検討しています。候補地に対して事業提案が出されています。再開発も単独棟が提案されていますが、それがコンペを通ったわけではありません。これからの事業主自体の方針が変わるかもしれないし全く分かりません。あくまで独立してあった方が良いというのが私の考えです。

シンフォニーホールもドームがあるから分かりますが、行ったら分かりません。あの高い建物があるから待ち合わせに便利だな、と言う以上の存在になっていません。岡山市のシンボルだと誰も思わないです。

リスクを先読みするのに市民の感覚をとというのはわかりますし、意見を集めることは必要ですが、シンフォニーホールの機能がこんなにだめになるというのは、その時点では予想がつかなかった訳です。その時の専門家たちの見解だと思えますが、「専門家にもわからない」ではなくて、正しい専門家、経済の専門家ではなく、まちづくり、劇場づくりの専門家がきちんと入ることで解決していくことではないかと思えます。

経済問題や実現性の問題は、あまり今は争点にならないと阿部委員はおっしゃったが、私はやはり大きな問題だと思っています。実際に土地を買収するのに、どのくらいお金がかかるか分からないというのは大変なリスクではないかと思えます。

私の個人的な意見として、日本は箱モノ行政で物を建てる時にお金が動いていきますが、それが出来た後にどうやって運営していくかということにもなります。せめて建物を建てる時から、機能性であるとか、人間の交流が出来る場所ということを考えて、劇場がつくられているかどうかがとても大きな問題です。市民会館にあった方が良い機能がいくつか考えられますが、天神山の場合だと市が持っているわけなので、テナントを入れなくてはいけないわけではありません。狭いように見えますけど、今の市民会館より面積が広いわけだから実は土地はあります。例えば倉庫の予定になっているところを、本当にその機能ではなくフルに使って、稽古場に関しては、小学校跡地を活用するなど市が独自で持っているものなので、ポテンシャルはたくさんあります。開発組合の提案を否定することではありません。やはり、これは市民会館なので市の方がどのような方針を持つかが大きく関わってきます。

私の記憶の中で言いますと、今から25年前に茨城県水戸市が水戸芸術館をつくりました。水戸芸術館というのは、現代美術については、今非常に注目されている施設で、そこからデビューしていったアーティストが沢山いますし、クロスオーバーな人々も多く生んでいます。非常にポテンシャルの高い美術館ができた訳ですが、その水戸芸術館をつくった時に、水戸市は「一般会計予算の1%を投入して芸術政策を高めている」と宣言をしました。それは私たちは非常に衝撃を受けたのですが、日本は文化予算がとても低いです。(世界では)3%くらいが当たり前なのですが、(日本では)1%でさえ驚くという現状

があります。日本という国が、アジアのリーダーに本当になっているかどうかも含めて、全世界の中で先進国であるとうぬぼれているだけで、非常に劣っているということが多い訳です。全世界のシェアでみた日本がみんなで「岡山型でやろう」という見本をつくるチャンスだと思います。お金もかかるので、いかに合理化するかという精神を今から持っているとしたら、どういう風にこの建物をつくるか、その意見は反映されるべきです。考え方は、今やらないとどうにもなりません。解決できることもあります。今、物事はどちらかという、シンプルにした方が良いでしょう。市民の方針の中でやっていくことです。

今までやってきたことをどうやって発展させていくか。例えば、市民劇場がやってきたことを認めていくときに、市民劇場が900席でないと言えれば、市が「800席だけ、1ステージ分を市が買い取る」ということで、対応することもありうる。800席の方が見やすいのであれば、絶対に観客にとっては、良いのですから。あとは、そういうことをするときに保障があるのかどうか。今までのやり方の中でベターな方が良いということをお急ぎに言うべきではないと思います。数字ではなく考え方として。

市民劇場が全国の中でどうなっているかという、岡山市民劇場は全国に誇る豊かな活動をされています。全国的には市民劇場がどんどん縮小しています。仙台も北海道もそうです。岡山が文化的にポテンシャルが高いのは、市民劇場が支えている部分が大きいです。そういうことが分かって、劇場の運営にどれぐらいのお金をかけて、どれぐらいのことが出来るのかの方針を持てるのが重要であって、建物のことはごく一部にすぎません。

候補地について検討してきましたが、本当はその先に、どういう文化的な街に岡山がなっていくかにおいては、過去の蓄積は非常に重要でありますし、日本文化の良さはいい意味でアマチュアの良さです。一般市民が参加できること、お稽古事をしていくことが、どうホールに反映するか、初めてホールの舞台に立って、音楽を演奏する体験を子供たちは忘れません。そういうことに、どのように運営で保障するかというノウハウは専門家にもあります。市民にももちろん意見を言っていただきたいのですが、いろいろなことができる、100年後を見たときに、いろいろなことがあることについては、ここでは詳しく言いませんが、今大きく開くチャンスです。そこにお金を掛けましょうよということです。お金の問題は大きいと思います。

阿部座長：

他に意見はありますか。

徳田委員：

坂手委員がおっしゃったように、誰が運営するかに大きく影響します。水戸芸術館は私も沢山行っています。現代美術を好きな人は皆行っています。それにプラスして、現代美術を知らない人も行くのが21世紀美術館です。行ったことがない人も行ってみたいと思わせる場所をどう作るかは運営する人に影響されます。どの場所になっても、運営する組織にしっかりした人は必ず入れてほしいです。「財政が厳しいから館長に市のOBを置きました」と言う程度だと疲弊していきます。

どうことをやるかということ、敷地の決定からは、どのように市民や専門家の意見を入れて、設計から建設まで進めていくかを明確にしてほしい。それから最初運営が安定するまでには、それなりに予算措置も必要だと思いますので、そこまで考えて候補地を決めてほしいというのが市民側の意見だと思います。

佐々木委員：

2回目の検討会で答えが出ているものもありますが、ほとんど候補地が決定されてから

考えますというのが多いです。内容を詰めていけば、結論はおのずと出てくるのでは。もっと具体的なものをお願いしたい。

駐車場を別敷地にするということについては、市民の感覚としては、車がなかったら動けないです。電車で会場に行く人は少ないと思います。駐車場の整備は、考えたうえで場所を決定しなくてはいけない大きな条件だと思います。天神町は良く行きますが、県立美術館で人気のある企画があると、美術館にも駐車場があるのですが、オリエント美術館の前まで入庫待ちの列ができて、他の車が通りにくいという状況になります。駐車場も沢山必要なので、建物が建つ前に駐車場として活用されている土地もありますが、平日でも足りません。車を置くことに日々困っているという状況です。

徳田委員：

私はちょっとそれは違う意見です。

佐々木委員：

私はそうなので、今の時代、公共交通機関のみを使うということは、ちょっと無理なことだと思います。それは考えの中に入れておいて欲しいです。

徳田委員：

現在、市民会館も文化センターも駐車場はありません。それなのに稼働率が非常に高いです。皆さん駐車場が無いと思うと、みんな考えて来る時間を早めます。それは市の交通事情がなっていないからでは。バス事業者をもっとまとめて欲しいです。駅から城下までのバスが全部空。公演があるときに限って、それを回して無料バスを設けて、ピストン輸送するなどのまちなかだからできる交通政策をもっと考えないと。高齢者が今後もっと増えていく中で、皆が車で移動するという時代はもう終わりだと思います。みんなが文化を楽しめるという政策をすれば、駐車場はなくても十分です。まちなかだからやれること。敷地がまちなかから離れてしまうと無理ですが。

阿部座長：

いろいろご意見いただきました。さらにご意見ありますでしょうか。

無いようですので、今日はたくさんご意見をいただきましてありがとうございました。中には委員のなかで対立するような意見も含まれていたように思いますが、我々の任務としては、市の最終的な意思決定に役立つ取りまとめをして、最終的な決定は市に判断をいただくということでもあります。

意見については、他の視点も含めて、いろいろと情報としてあったのではないかと思います。

「資料1」のたたき台としての資料ではありますが、この内容について、今日いただいたご意見を追加した形で、最終的な検討会としての意見のまとめにさせていただきたいと思っています。できましたら、内容確認については、座長に一任ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

阿部座長：

今日も市の方で詳細に発言録を取っていただいていますので、それを確認したうえでまとめさせていただきたいと思っています。

市においては、それを参考にして、最終的な候補地の決定をしていただければ、と思います。それでは、本日の議事についてはこれで終了とさせていただきます。

3回にわたり、非常に活発な意見をいただきありがとうございました。

以上